

平成 15 年 3 月 17 日

平成 15 年 9 月期第 1 四半期の業績等の概況

会社名 ジョルダン株式会社
(コード番号：3710)

本社所在地 東京都新宿区新宿 2 丁目 1 番 9 号
問合せ先 取締役管理部長 湯澤 千 克

T E L (03) 5369 - 4051

1 業績

(1) 平成 15 年 9 月期第 1 四半期 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日) の業績

< 連結ベース >

(単位：百万円 百万円未満切捨)

| | 15 年 9 月期第 1 四半期 (当四半期) | 対前年同期増減率 | 14 年 9 月期第 1 四半期 (前年同四半期) | 参 考 前期 (通期) |
|---------|------------------------------|----------|--------------------------------|------------------|
| 売 上 高 | 293 | - % | - | 1,074 |
| 営 業 利 益 | 59 | - % | - | 237 |
| 経 常 利 益 | 63 | - % | - | 235 |

(注) 1. 前年同四半期の数値に関しましては、四半期決算を行っておりませんので記載を省略しております。
2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(2) 部門別の売上高内訳

< 連結ベース >

(単位：百万円 百万円未満切捨)

| | 15 年 9 月期第 1 四半期 (当四半期) | | 対前年同期増減率 | 14 年 9 月期第 1 四半期 (前年同四半期) | | 参 考 前期 (通期) | |
|---------------|------------------------------|--------|----------|--------------------------------|--------|------------------|--------|
| | 金 額 | 構 成 比 | | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 乗換案内 事業 | 228 | 77.9% | - % | - | - % | 755 | 70.2% |
| マルチメディア 事業 | 59 | 20.2% | - % | - | - % | 242 | 22.5% |
| その他 | 5 | 1.9% | - % | - | - % | 77 | 7.3% |
| 合 計 | 293 | 100.0% | | | 100.0% | 1,074 | 100.0% |

(注) 1. 前年同四半期の数値に関しましては、四半期決算を行っておりませんので記載を省略しております。
2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(3) 主な資産・負債の変動について

< 連結ベース >

(単位：百万円 百万円未満切捨)

| 項 目 | 15 年 9 月期第 1 四半期 | 増減額 | 前期末 |
|-----------|------------------|-----|-----|
| (資 産) | | | |
| 現 金 預 金 | 628 | 84 | 713 |
| 売 掛 金 | 149 | 13 | 136 |
| 製 品 | 20 | 1 | 21 |
| (負 債) | | | |
| 買 掛 金 | 29 | 1 | 31 |
| 未 払 消 費 税 | 7 | 4 | 12 |
| 賞 与 引 当 金 | 9 | 9 | 19 |

(注) 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2 業績の概況

当四半期（平成14年10月1日～平成14年12月31日）におけるわが国経済は、米国経済低迷の長期化や個人消費の低迷、失業率の上昇等により不透明感を増しております。国内パソコン市場は、長引く景気低迷の影響を大きく受け、企業を取り巻く経営環境も依然として厳しい状況が続いております。

ソフトウェア業界におきましても、企業のソフトウェア投資需要の低迷、公共投資の減少等により、厳しい経営環境は続くものと思われます。しかしながら、ユビキタス化（インターネット環境の遍在化）の進展による、今後のソフトウェア需要の増加に期待が寄せられております。特に携帯電話につきましては、既に広く浸透しており、当社グループにおきましても、携帯電話向け「乗換案内」が平成14年12月には月間30百万検索を超えるなど、新規事業であるVTA事業の基盤を整えつつあります。

当四半期における当社グループ事業を取り巻く経営環境は、個人消費不振の影響を少なからず受けたものの、乗換案内事業は順調に推移しました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

（乗換案内事業）

乗換案内事業では、パソコン需要が前年同期を下回るなど環境は依然厳しいものがありますが、東北新幹線の延伸及びりんかい線と埼京線の直通運転開始等の鉄道路線の改変が、当社グループ製品購入リピーターに対し当社グループの主力製品であるソフトウェア「乗換案内」のコンシューマー向け商品である「乗換案内 時刻表対応版」の年間サポートの需要を喚起し、その売上が順調であったこと等により、売上高228,685千円となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、ゲームボーイアドバンス向け新作ゲームソフト「犬っこ倶楽部」の発売、前期末に発売のゲームボーイアドバンス向けゲームソフト「ファンシーポケット」の販売が継続していること等により、売上高59,528千円となりました。

（その他）

受託システム開発等については、売上高5,310千円となりました。

以上の結果、当四半期におきましては、売上高293,524千円、経常利益63,586千円の業績となりました。

（注）前年同四半期の比較数値については、四半期決算を実施しておりませんので記載を省略しております。